

スイスの概要

1.1	地理	25
1.2	気候	25
1.3	政治制度	26
1.4	財政	28
1.5	中立性	28
1.6	人口	28
1.7	多様な価値観への開放性と国際性	29



アルプス山脈とジュラ山脈に抱かれたスイスは、欧州の南北を結ぶ通信と運輸の中心です。欧州の様々な文化や言語が会う場所です。これほど狭い地域でありながら大きな多様性を擁する国は、他にありません。スイス経済が高度成長を遂げた背景には、リベラルな経済システムと安定した政治、外国経済との緊密な連携があります。国は必要な大枠の条件を策定し、国の介入は国民全体の利害に関わる場合に限定されています。さらに、優れた教育制度と充実したインフラ設備が、スイス経済の競争力の基盤を構成しています。

1.1 地理

スイスの総面積は、41,285平方キロメートルです。スイスは、丘陵や山脈、川や湖、森林や草原等、豊かな自然に恵まれています。スイスアルプスに加え、ポーデン湖からレマン湖に伸びる起伏のあるミッテルラント地方、褶曲山脈が連なるスイスジュラが、スイスの代表的な三つの地形を形成しています。ミッテルラントは、スイス総面積の30%、人口の3分の2を占めています。工業用地のほとんどはミッテルラントに集まっています。欧州の中央に位置するスイスは様々な文化が交わる場所であり、同時に欧州の南部と北部を結ぶ通信、および交通の要衝でもあります。

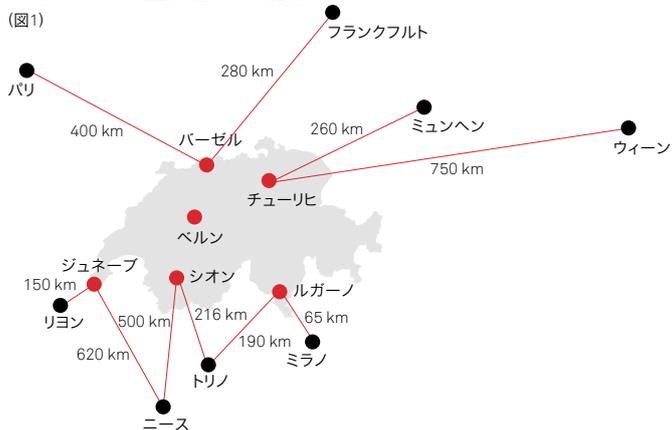
スイスには、無数の河川と1,500を超える湖があります。最も大きな二つの湖は、隣国と接しています。南西部にあるレマン湖はフランスに、北東部に位置するポーデン湖は、ドイツとオーストリアに接しています。

www.swissworld.org

スイスの概要

スイスと欧州主要都市の距離

(図1)



出典：筆者作成

1.2 気候

スイスは、適度な寒暖と湿度の低い穏やかな気候が特徴です。夏の間は、日中の気温が18℃～28℃、冬の間は、-2℃～7℃の間で変化します。春と秋の間は、日中の気温は8℃～15℃です。スイスの気温は、主として海拔に左右されます。気候は、アルプスを境に北部と南部ではっきりと分かれます。南部は地中海性気候の影響を大きく受けており、北部に比べて冬季は格段に温暖です。

www.meteoschweiz.ch

天気と気候

1.3 政治制度

1.3.1 連邦制度

スイスは国民自らの意思で創設された国家であり、言語や宗教が異なる複数の民族から構成されています。近代国家としてのスイスが成立したのは1848年です。それ以前のスイスは、独立した州の緩やかな連合体でした。インターネットのアドレスなどで用いられるスイスを表す略字の〈CH〉は、正式なラテン語名のコンフェデラチオ・ヘルベティカ(Confoederatio Helvetica)に由来しています。

スイスは連邦制を採用しており、市町村、州、連邦という3つのレベルで政治が行われています。連邦政府は外交・安全保障、関税、金融制度、国内法令、防衛など憲法に定められた分野を担当しています。26の州には、国際的にみても大きな権限が委ねられています。ヘルスケア、教育、文化はこういった政治分野に含まれており、各州は大きな決定力を行使することができます。また、小規模で柔軟性のある政治組織であることから、各州は様々な分野で互いに競い合うこともあります。連邦制により、国民や産業界にとって政治は非常に身近なものとなっています。これは、公共サービスの多くが州や市町村レベルで引き取られ、実施されていることによります。州と市町村には一定の自治が認められ、各地域のニーズに合った政策をとることができるのです。

www.ch.ch
連邦、州、および市町村に関するオンライン情報

1.3.2 連邦レベルでの三権分立

連邦憲法は国民をスイスの主権者、すなわち議会を選出する最高の政治機関と定めています。すべての国民は、国民投票(レファレンダム)や国民発議(イニシアティブ)を通じて、憲法や法律の策定に参加する権利を持っています。

連邦の立法府、すなわち議会は二院制です。国民の代表である200人の議員から成る国民議会と、26州の代表である46人の議員から成る全州議会で構成されています。国民議会は4年ごとに国民の直接選挙で選出され、各州がそれぞれひとつの選挙区となります。州ごとに人口に比例した数の議員が選出されますが、どの州も最低1人の代表を選出する権利があります。

連邦政府は連邦参事会と呼ばれ、合議制で運営されています。両院議員で構成される連邦議会合同会議によって7人の閣僚が選出され、7つの省のいずれかを担当します。さらに、輪番制のもと、連邦参事会の代表が1年ごとに大統領職を交替で務めています。

スイスにおける司法権の最高機関は、ローザンヌにある連邦最高裁判所です。また、ルツェルンには連邦保険裁判所、ベリンツォーナには連邦刑事裁判所、ザンクトガレンには連邦行政裁判所がそれぞれ置かれています。

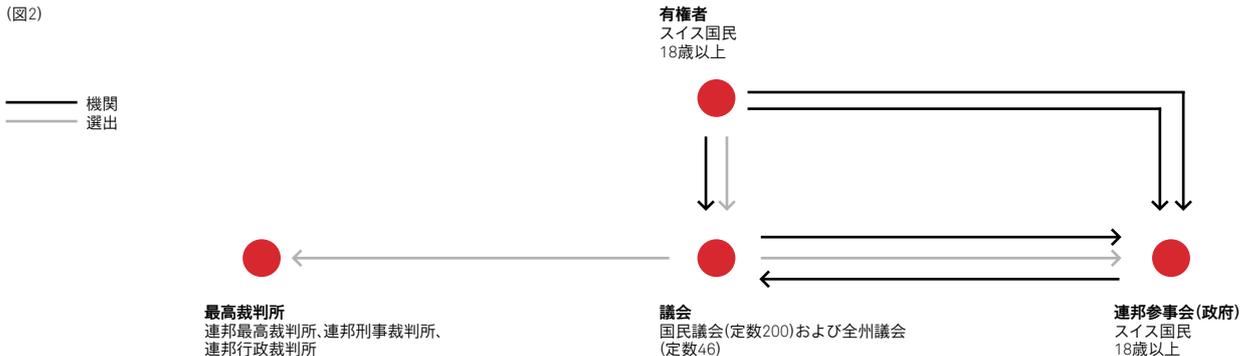
www.bger.ch
連邦最高裁判所／保険裁判所

www.bstger.ch
連邦刑事裁判所

www.bvger.ch
行政裁判所

スイスの政治制度

(図2)



1.3.3 直接民主制と合議制

スイスほど国民に大幅な共同決定権がゆだねられている国は類を見ません。国民は国民発議(イニシアティブ)によって憲法の改正や条項の追加を請求することができ、国民投票(レファレンダム)によって議会の決議の可否を判断することができます。長い民主主義の伝統に加え、国や人口の規模が相対的に小さく、高い識字率によって多様なメディア媒体を利用できるといった要素が、こうした特殊な国家形態を支えてきました。通常だと年に4回、有権者は連邦法案に対して投票する機会があります。

スイス政治の特徴は合議制にあります。何十年もの間、主要政党が連立形式で7人の連邦閣僚を指名してきました。同様に、当選した候補者のみが議席を獲得するのではなく、得票数に応じてすべての政党に議席が配分されます。決議内容に応じて、多数派の構成は異なります。そのため、できる限り多くの団体が議題に対して意見を表明することができ、幅広い支持に基づく妥協案の実現が図られています。連帯と合議制の原則のもと、合意に達しようとする努力がスイスの政治的安定に大きく貢献しているのです。

1.3.4 政治的安定と社会の調和

スイスは各種調査において、安全、私的財産、社会的なまとまり、政治的安定の面で、国際比較で常に高い評価を得ています(図3)。スイス国民は、独立性に大きな価値を置いています。異なる言語や文化が並存していても、国内は極めて安定しています。スイスには、非常に高い寛容さがあり、個人の自由が尊重されているのです。合議制の原則は、労使関係や代表者間の関係にも適用されます。労使ともに、交渉による問題解決に努めています。このような社会の調和を背景に、何十年にもわたってスイスは広い範囲で繁栄し続けてきたのです。

www.admin.ch
スイス連邦当局

政治的安定

安定=10、不安定=0

(図3)

1	スイス	9.50
2	デンマーク	9.49
3	フィンランド	9.12
5	スウェーデン	8.65
6	ドイツ	8.55
7	オランダ	8.50
8	ルクセンブルク	8.49
9	中国	8.44
11	シンガポール	8.36
16	オーストラリア	7.80
18	インド	7.57
19	日本	7.54
20	カナダ	7.39
22	アイルランド	7.25
23	フランス	7.11
24	オーストリア	6.79
32	英国	5.98
38	米国	5.56
45	韓国	4.29
46	イタリア	4.12

出典：IMD世界競争力センター、2022年

1.4 財政

スイスは、コロナのパンデミックを経験したにもかかわらず、安定志向の国という評判を維持し続けています。EU諸国や主要先進工業国に比べると、インフレ率は格段に低く抑えられています。同じことが失業率にも当てはまり、常に4%を下回っています。スイスでは金利水準も伝統的に低いのですが、同時に、貯蓄率の高さも特徴的です(2021年の国民総所得に対する民間貯蓄は、26.5%に上ります)。

財政支出比率は、財政支出が国内総生産(GDP)に占める割合を算定したものです。この中には自治体による支出と強制加入の社会保険が含まれており、スイスの財政支出比率は、32.9%(2017年)となっています。一方、欧州諸国では、財政支出が50%を大きく上回ることも稀ではありません。

スイスの財政状況は健全です。これは中央政府である連邦だけでなく、州や市町村にも当てはまります。2021年の赤字比率は名目GDPの0.5%になっています。コロナ流行後の景気回復が進んでおり、2022年には公共予算の財政状況は正常化するものと思われる。

公的債務も、欧州のほとんどの国より低く抑えられています。公的部門の債務残高は、対GDP比で27.5%でした(2021年)。EU加盟国の平均(88.1%)と比較すると、スイスの債務率は非常に低いことが分かります。欧州諸国の過半数がスイスよりはるかに高いレベルの債務を抱えています。

www.efv.admin.ch
連邦財務局(EFV)

スイスの公的債務は、欧州の大半の国よりはるかに低く抑えられています。

1.5 中立性

スイスの外交政策は、中立性の原則に基づいています。しかし、中立性を尊重するからといって、国際情勢の傍観者にとどまるということではありません。スイスは、2002年より国連に加盟し、国連の専門機関において重要な役割を果たしてきました。さらにスイスは、欧州自由貿易連合(EFTA)をはじめとする重要な経済機関で、現在に至るまでずっと積極的な役割を担ってきました。

スイスは、1515年から中立を守り、1815年に終結したナポレオン戦争後は欧州列強にもその立場が認められてきました。欧州には、スイスほど長く中立性の伝統を持つ国はありません。冷戦終結後、スイスは中立性のありかたを緩和しました。北大西洋条約機構(NATO)の役割が変化し、治安維持任務が増加したため、スイスも1996年にNATO平和協力協定を締結しました。中立な立場を買われてスイスが仲介役を担うことも少なくありません。場合によっては、正式な国交のない国家間の利害をスイスの外交官が代弁することもあります。政治的にデリケートな会談や会議の開催地として、スイスは中立的な領土を提供しています。

www.eda.admin.ch
スイス連邦外務省(FDFA)

1.6 人口

スイスの定住者人口は、2021年末時点でおよそ870万人に上ります。スイスに居住する外国籍者の割合は、およそ25%です。スイスは世界最長寿国に数えられ、その平均寿命は男性が81.7歳、女性が85.7歳という長さです。住宅地が比較的分散しているため、過密状態には至っていません。人口の3分の2以上が、5大都市(チューリヒ、ジュネーブ、バーゼル、ベルン、ローザンヌ)とその周辺の都市圏で暮らしています。

4つの言語が公用語として認められています。ドイツ語、フランス語、イタリア語、ロマンシュ語です。スイスの北部、東部および中央部ではドイツ語が話されていますが、日常のやりとりでは方言(スイスドイツ語)が一般的です。スイス西部のロマンディーおよびミッテルラントの一部では、フランス語が用いられています。南部(ティチーノ州)では、イタリア語、グラウビュンデン州の一部地域ではロマンシュ語が話されています。英語も、スイス全土に広く浸透しており、大部分の国民が英語を話すことができます。

www.statistik.admin.ch
スイス連邦統計局(BFS)

1.7 多様な価値観への開放性と国際性

1.7.1 言語と起源

スイスでは、国民の大半が少なくともひとつの外国語を話します。小学生の段階から外国語を身に着けていることも珍しくありません。小学校では、早期に英語の授業が導入されているのです。他国からの移住などもあり、開放的な土地柄によって、多様な言語が実際に話され、コミュニケーションの手段として使われています。国際的なビジネスの場では、各国の言語とともに英語がよく使われ、経営者の多くは英語で仕事をしています。

多様な言語や宗教、多くの外国人居住者が共生しており、スイスは異文化に対して非常にオープンで寛容です。この開放性により、外国企業はスイスを拠点として事業を展開することができるのです。欧州はスイスにとって最大の取引相手ですが、米国やアジアなど他の市場とも密接な関係にあります。特に金融の中心であるチューリヒとジュネーブは、異文化のつぼみです。文化面でも、スイスは寛容で開放的な伝統を守ってきました。中立を国の政策に掲げているため、世界のどんな国とも交流することができ、相互の連携にも前向きなのです。こうした多様性があるからこそ、国際企業だけではなく、多くの国際機関がスイスに拠点を設置しているのです。

1.7.2 国際機関

スイスは、政治的独立性が高く、国際理解も含め意識の高い献身に取り組む国です。そのため、ジュネーブに本部を置く国際連合をはじめとして多くの国際機関が拠点を構えています。また、国連のアドバイザーを務める約250の非政府組織が本拠地をスイスに置いています。

国際的な経済指数

(図4)

ランク		グローバル化指標(総合)
1	スイス	91
2	オランダ	90
3	ベルギー	90
4	スウェーデン	89
5	英国	89
6	ドイツ	88
7	オーストリア	88
8	デンマーク	88
9	フィンランド	87
10	フランス	87
11	アイルランド	86
12	ルクセンブルク	85
18	カナダ	84
20	シンガポール	83
22	イタリア	83
24	米国	81
36	韓国	78
41	日本	75
65	香港	67
86	インド	63

出典：2022年度版KOFグローバル化指数、2020年時点